



学科・年次	言語聴覚科・2年次
科目名	小児科学
担当者	益田 健史
単位数（時間数）	1単位（30時間）
学習方法	講義形式。プリント及びパワーポイント資料を活用。
教科書・参考書	講義プリント：標準理学療法学・作業療法学 小児科学第5版（医学書院）、 内科学（朝倉書院）、シンプル病理学（南江堂）参照。

授業概要と目的
<p>小児の疾患と障害の特性を理解し、その知識を身につける。</p> <p>なお、医師として臨床経験のある講師が講義を担当する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「小児科学概論」 小児の発育と特徴、保健について理解する。	「小児の発育と保健」 小児の発育と特徴、保健について説明することが出来る	益田 健史
2	前期	「感染症」 感染症の全体像を把握する	「感染症の基礎知識」 感染症の全体像を把握し説明できる	益田 健史
3	前期	「小児の感染症」 細菌・ウイルス感染症を中心に、小児に生じる代表的な感染症を理解する。	「小児に特徴的な感染症」 細菌・ウイルス感染症を中心に、小児に生じる代表的な感染症を説明できる	益田 健史
4	前期	「遺伝子疾患と先天異常」 遺伝子の理を知る。	「遺伝子と染色体について」 遺伝子異常・染色体異常を理解し説明できる。	益田 健史
5	前期	「遺伝子疾患と先天異常」 循環器の先天異常を理解する	「先天性心疾患」 先天性心疾患の解剖学的構造・血行動態を理解し説明できる	益田 健史

6	前期	「遺伝子疾患と先天異常」 消化器・呼吸器の先天異常を理解する。	「先天性消化器疾患、呼吸器疾患」 呼吸器系・消化器系の先天異常を理解し説明できる。	益田 健史
7	前期	「先天異常を含まない循環器・呼吸器・消化器疾患」	「心疾患、消化器疾患、呼吸器疾患」 先天異常を含まない各種疾患について理解する。	益田 健史
8	前期	「血液疾患」 血球成分・血漿成分の働きを知り、小児で認められる血液疾患を理解する。	「血液疾患」 血球成分・血漿成分の働きを知り、小児で認められる血液疾患を理解し説明できる。	益田 健史
9	前期	「神経疾患・神経系の先天異常」 神経系の発生学を学び、そこから生じる神経系の先天異常を理解する。	「神経疾患・神経系の先天異常」 神経系の発生学を学び、そこから生じる神経系の先天異常を理解し説明できる。	益田 健史
10	前期	「腫瘍」 小児に特徴的に認められる腫瘍性疾患を理解する。	「小児に好発する腫瘍」 小児に特徴的に認められる腫瘍性疾患を理解し説明できる。	益田 健史
11	前期	「代謝障害」 小児の代謝障害とスクリーニングについて理解する。	「小児で認められる代謝障害」 小児の代謝障害とスクリーニングについて理解し説明できる。	益田 健史
12	前期	「免疫・アレルギー疾患」 人体の免疫システムを知り、免疫の関わる疾患を理解する。	「小児のアレルギー疾患」 人体の免疫システムを知り、免疫の関わる疾患を理解し説明できる。	益田 健史
13	前期	「眼科・耳鼻科的疾患」 小児で認められる眼科・耳鼻科疾患を理解する。	「小児の眼科・耳鼻科的疾患」 小児で認められる眼科・耳鼻科疾患を理解し説明できる。	益田 健史
14	前期	「てんかん」 2017 年に大改訂されたてんかんについて理解する。 「まとめ」 ここまでの知識の統合整理	「小児のてんかん」 2017 年に大改訂されたてんかんについて理解し説明できる 「まとめ」 ここまでの知識の統合整理し説明できる。	益田 健史

15	前期	「試験と解説」	「試験と解説」 科目試験を解くことができる。 解説から誤りを理解し訂正できる	益田 健史
成績評価方法		科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。		
準備学習など		プリントの復習。		
留意事項		授業で配布したプリントをファイルして保存する事。		

学科・年次	言語聴覚科 2学年
科目名	リハビリテーション医学
担当者	伊藤 直樹
単位数（時間数）	2単位（40時間）
学習方法	講義・グループワーク・実技
教科書・参考書	<p>&lt;教科書&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適宜，資料を配布</li> </ul> <p>&lt;参考書&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本リハビリテーション医学会監修：「リハビリテーション医学・医療コアテキスト」，医学書院.</li> <li>・ 安保雅博監修：「リハビリテーション医学第1版」，羊土社.</li> </ul>

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>リハビリテーションの理念を導入部として，リハビリテーション医学分野で行われている臨床的内容について理解する．講義に際しては，教科書の知識のみならず，最近の動向や実践的なエビデンスも多く紹介できるよう配慮する．理学療法士として臨床経験のあるものが，その経験を活かし講義を担当する．</p> <p>目的</p> <p>リハビリテーション医学について理解する．</p>

回 ( コ マ マ )	授 業 日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担 当 者
1	前期	<p>「リハビリテーション医学・医療とは何か」</p> <p>一般目標</p> <p>① リハビリテーションの定義・本質を理解する</p> <p>② リハビリテーションの流れを理解する</p>	<p>「リハビリテーション医学・医療とは何か」</p> <p>到達目標</p> <p>① リハビリテーションとは何かについて説明できる</p> <p>② 各病期のリハビリテーションの目的と内容を説明できる</p>	伊藤直樹
2	前期	<p>「リハビリテーション医学・医療とは何か</p> <p>グループ演習」</p> <p>一般目標</p>	<p>「リハビリテーション医学・医療とは何か</p> <p>グループ演習」</p> <p>到達目標</p>	伊藤直

		① グループでリハビリテーション医学・医療について議論し、理解を深める	① リハビリテーション医学・医療の本質を理解し、自身の将来像を言語化できる	樹
3	前期	「機能・活動の評価と国際生活機能分類」 一般目標 ① 機能評価の在り方を理解する ② 日常生活活動とその評価法を理解する ③ 国際生活機能分類を理解する	「機能・活動の評価と国際生活機能分類」 到達目標 ① 評価の流れを説明できる ② 日常生活活動の重要性と評価法について説明できる ③ 国際生活機能分類を説明できる	伊藤直樹
4	前期	「機能・活動の評価と国際生活機能分類 グループ演習」 一般目標 ① 日常生活活動の評価を模擬患者の動画を使って行い、評価の内容について理解する ② 国際生活機能分類に従って分類を行い、その内容について理解する	「機能・活動の評価と国際生活機能分類 グループ演習」 到達目標 ① 模擬患者の動画を見ながら日常生活活動の評価を行う。 ② その結果から、国際生活機能分類に従って分類できる。	伊藤直樹
5	前期	「多職種への理解と連携 1」 一般目標 ① 連携の方法を理解する ② リハビリテーションに関連する多職種を理解する	「多職種への理解と連携 1」 到達目標 ① チームアプローチモデルについて説明できる ② 理学療法について説明できる ③ 作業療法について説明できる ④ その他リハ関連職種について説明できる	伊藤直樹
6	前期	「多職種への理解と連携 2」 一般目標 ① 理学療法実習室の見学を通じてリハビリテーション施設の設備を知る	「多職種への理解と連携 2」 到達目標 ① 理学療法実習室の見学を通じて、一般的なリハビリテーション施設の設備について説明できる ② 理学療法で用いる器具に触れて、その活用法を説明できる	伊藤直樹
7	前期	「運動学と運動学習」 一般目標 ① 身体がどのように動いているのかを理解する ② 運動学習を理解する	「運動学と運動学習」 到達目標 ① 身体がどのように動いているのかを説明できる	伊藤直樹

			② 運動学習について説明できる	
8	前期	「運動学と運動学習のグループ演習」 一般目標 ① 歩行を観察してどのタイミングでどこが動いているのかを観察する ② フィッツの法則を体験する	「運動学と運動学習のグループ演習」 到達目標 ① 歩行を観察してどのタイミングでどこが動いているのかを説明できる ② フィッツの法則を体験し、説明できる	伊藤直樹
9	前期	「介助方法の実技1：寝返り，起き上がり，トランスファー，車椅子操作」 一般目標 ① 介助の方法を理解する ② 正しい車椅子操作を理解する	「介助方法の実技1：寝返り，起き上がり，トランスファー，車椅子操作」 到達目標 ① 効率の良い介助方法を実践できる ② 正しい車椅子操作を実践できる	伊藤直樹
10	前期	「介助方法の実技2：寝返り，起き上がり，トランスファー，車椅子操作」 一般目標 ① 介助の方法を理解する ② 正しい車椅子操作を理解する	「介助方法の実技2：寝返り，起き上がり，トランスファー，車椅子操作」 到達目標 ① 効率の良い介助方法を実践できる ② 正しい車椅子操作を実践できる	伊藤直樹
11	前期	「高齢者に対するリハビリテーション」 一般目標 ① フレイルについて理解する ② サルコペニアについて理解する ③ 認知症について理解する ④ 難聴に対するリハビリテーションについて理解する	「高齢者に対するリハビリテーション」 到達目標 ① フレイルについて説明できる ② サルコペニアについて説明できる ③ 認知症について説明できる ④ 難聴に対するリハビリテーションについて説明できる	伊藤直樹
12	前期	「高齢者に対するリハビリテーショングループ演習」 一般目標 ① グループで高齢者に対するリハビリテーションについて議論し、具体的な事例を通じて学ぶ	「高齢者に対するリハビリテーショングループ演習」 到達目標 ① 提示された事例に対する問題点を列挙できる ② 事例に対する目標設定や対策を検討できる ③ グループで模擬カンファレンスを実施し、症例検討を実践する	伊藤直樹

13	前期	<p>「脳血管疾患のリハビリテーション」</p> <p>一般目標</p> <p>① 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、パーキンソン病など）の障害像を理解する</p> <p>② 脳血管疾患のリハビリテーションを理解する</p> <p>③ 装具療法について理解する</p>	<p>「脳血管疾患のリハビリテーション」</p> <p>到達目標</p> <p>① 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、パーキンソン病など）の病態を説明できる</p> <p>② 脳血管疾患による障害像を説明できる</p> <p>③ 装具療法について説明できる</p> <p>④ 脳血管疾患に対するリハビリテーションの具体例に触れる</p>	伊藤直樹
14	前期	<p>「脳血管疾患のリハビリテーショングループ演習」</p> <p>一般目標</p> <p>① グループで脳血管疾患に対するリハビリテーションについて議論し、具体的な事例を通じて学ぶ</p>	<p>「脳血管疾患のリハビリテーショングループ演習」</p> <p>到達目標</p> <p>① 提示された事例に対する問題点を挙げることができる</p> <p>② 事例に対する目標設定や対策を検討できる</p>	伊藤直樹
15	前期	<p>「脊髄損傷および四肢切断のリハビリテーション」</p> <p>一般目標</p> <p>① 脊髄損傷の障害像を理解する</p> <p>② 脊髄損傷のリハビリテーションを理解する</p>	<p>「脊髄損傷および四肢切断のリハビリテーション」</p> <p>到達目標</p> <p>① 脊髄損傷による障害像を説明できる</p> <p>② 脊髄損傷に対するリハビリテーションの具体例に触れる</p> <p>③ 四肢切断による障害像を説明できる</p> <p>四肢切断に対するリハビリテーションの具体例に触れる</p>	伊藤直樹
16	前期	<p>「運動器疾患のリハビリテーション」</p> <p>一般目標</p> <p>① 運動器疾患（骨折、変形性関節症、関節リウマチ）の障害像を理解する</p> <p>② 運動器疾患のリハビリテーションを理解する</p>	<p>「運動器疾患と関節リウマチのリハビリテーション」</p> <p>到達目標</p> <p>① 運動器疾患（骨折、変形性関節症、関節リウマチ）の障害像を説明できる</p> <p>② 運動器疾患のリハビリテーションを理解する</p>	伊藤直樹
17	前期	<p>「内部障害のリハビリテーション」</p> <p>一般目標</p> <p>① 内部障害（呼吸器、循環器など）疾患の障害像およびリハビリテーションを理解する</p> <p>② がんのリハビリテーションを理解する</p>	<p>「内部障害のリハビリテーション」</p> <p>到達目標</p> <p>① 呼吸器疾患による障害像を説明できる</p> <p>② 循環器疾患による障害像を説明できる</p> <p>③ がんのリハビリテーションについて説明できる</p>	伊藤直樹

18	前期	<p>「各疾患に対するリハビリテーショングループ演習」</p> <p>一般目標</p> <p>① グループで講義15～17で行った各疾患に対するリハビリテーションについて議論し、具体的な事例を通じて学ぶ</p>	<p>「各疾患に対するリハビリテーショングループ演習」</p> <p>到達目標</p> <p>① 提示された事例に対する問題点を列挙できる</p> <p>② 事例に対する目標設定や対策を検討できる</p>	伊藤直樹
19	前期	<p>「リハビリテーション医学に関する国試対策演習および本講義の復習」</p> <p>一般目標</p> <p>① 本講義の総復習</p> <p>② リハビリテーション医学に関連した国家試験問題の演習を実践する</p>	<p>「リハビリテーション医学に関する国試対策演習および本講義の復習」</p> <p>到達目標</p> <p>① 本講義の総復習</p> <p>② リハビリテーション医学に関連した国家試験問題の演習を実践する</p>	伊藤直樹
20	前期	<p>「まとめと評価」</p> <p>一般目標</p> <p>① 本講義の総括試験</p> <p>② 総括試験を通じての復習と総括</p>	<p>「まとめと評価」</p> <p>到達目標</p> <p>① 本講義の総括試験</p> <p>② 総括試験を通じての復習と総括</p>	伊藤直樹
成績評価方法	<p>期末試験（100点）で評価します。なお、演習等で前向きに授業に参加していることが評価の前提となります。</p>			
準備学習など	<p>準備学習は、こちらから課すべきものではありません。リハビリテーション医療の中で、言語聴覚士として何を学ばなければならないのかについて、自身で考え行動してください。必要に応じて、参考書等にも目を通しながら、適宜、復習することをお勧めします。</p>			
留意事項	<p>実技を行うコマがあります。事前に連絡をしますので動きやすい服装で受講してください。</p>			

学科・年次	言語聴覚科 2 学年	
科目名	臨床神経学Ⅱ	
担当者	平野 裕滋	
単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
学習方法	講義	
教科書・参考書	神経内科学テキスト 江藤文夫 飯島節 南江堂	参考書

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>理学療法士として中枢神経系障害のリハビリテーション経験のある教員がその経験を活かし中枢神経障害の臨床像を具体的に説明する。</p> <p>授業目的：中枢神経障害の症状にたいして適切な評価、解釈が出来るようになる</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「排尿機能」 排尿のメカニズムを理解する	「排尿メカニズム」 排尿は多くの神経系を介してコントロールされている。その流れを簡潔に述べられる。	平野 裕滋
2	前期	「変性疾患」 変性疾患群を理解する。	「変性疾患について」 その成り立ち、特徴的な症状や検査所見の概略を述べられる。	平野 裕滋
3	前期	「大脳基底核変性疾患」 大脳基底核に生じる変性疾患を理解する。	大脳基底核変性疾患について その成り立ち、特徴的な症状や検査所見の概略を述べられる。	平野 裕滋
4	前期	「中枢神経系」 脳を中心とする神経系の分布を理解する。	「中枢神経系と抹消神経系について」 その病態の違い、検査所見の違いを簡潔に述べることが出来る。	平野 裕滋
5	前期	「脱髄疾患・筋疾患」 異なる病態による臨床症状を理解する。	「脱髄疾患」「筋疾患」について 臨床症状の鑑別の方法やその障害に対するアプローチの概略を述べることが出来る。	平野 裕滋
6	前期	「神経筋接合部疾患」 神経筋接合部疾患について理解する。	「神経筋接合部疾患について」 神経伝達のメカニズムを復習することで疾患の臨床症状を述べることが出来る。	平野 裕滋

7	前期	「脳梗塞 1」 脳梗塞について理解する。	「脳梗塞について」 脳血管の分布、脳局在の場所などを総合的に勘案して臨床症状を述べる事が出来る。	平野 裕滋
8	前期	「脳梗塞 2」 脳出血について理解する。	「脳梗塞について」 脳血管の分布、脳局在の場所などを総合的に勘案して臨床症状を述べる事が出来る。	平野 裕滋
9	前期	「脳出血」 脳出血について理解する。	「脳出血について」 脳血管の分布、脳局在の場所などを総合的に勘案して臨床症状を述べる事が出来る。	平野 裕滋
10	前期	「脳腫瘍」 脳腫瘍について理解する。	「脳腫瘍について」 脳腫瘍の発症部位や治療方法および臨床症状を簡潔に述べる事が出来る。	平野 裕滋
11	前期	「認知症 1」 認知症について理解する。	「認知症について」 認知症のタイプや特徴的な症状、治療方法および患者への接し方を。	平野 裕滋
12	前期	「認知症 2」 認知症について理解する。	「認知症について」 認知症のタイプや特徴的な症状、治療方法について述べ、患者への接し方を工夫できる。	平野 裕滋
13	前期	「脳性麻痺」 脳性麻痺について理解する。	「脳性麻痺について」 脳性麻痺の発症と発達との関連性を述べる事が出来る。	平野 裕滋
14	前期	「頭部外傷・てんかん」 頭部外傷、てんかんについて理解する。	「頭部外傷、てんかんについて」 頭部外傷の合併症や後遺症について述べる事が出来る。てんかんの症状や対応方法を簡潔に述べる事が出来る。	平野 裕滋
15	前期	「科目試験」 科目試験を通じて神経学の概要について理解する。	「科目試験」 科目試験の問題を解くことができる。	平野 裕滋
成績評価方法		科目試験は 100 点満点で 60 点以上が合格です。国家試験を控えた最終学年としての知識の整理を確認する意味を含めて、国家試験に準じた内容および解答方式で施行・採点します。		
準備学習など		2 年間の知識の整理を行い、国家試験のためだけでなく臨床に役立つ応用力を身につけてください。		

留意事項	
------	--

学科・年次	言語聴覚科2年
科目名	社会保障制度論
担当者	葛谷桂司
単位数(時間数)	1単位(24時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	中央法規 社会保障入門2024 中央法規 社会保障の手引2024

授業概要と目的
<p>職業リハビリテーション(就労支援)の業務において障害者、生活困窮者等社会的弱者のカウンセリング、社会保障制度の情報提供、助言、活用の提案、実践を行っている現場職員が担当する。社会保障制度とは、1. 医療保険、年金保険を代表とする保険制度2. 児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉等で周知されている社会福祉制度3. 疾病予防、食糧・水の安全の確保、生活環境の衛生保全を目的とした公衆衛生と大きく分類されている。これらの法が単独で成立しているのではなく、「人が生まれてから、天寿を全うするまで」の間の全てのライフサイクルに関わってくる。本講義では言語聴覚士として各法制度の理解、活用ができること。卒業後、医療・福祉各機関で活躍のために必要な知識を習得することで実践に結び付けたい。現行の社会保障制度を理解することにより1. 対象者へ質の高いサービスを提供するために制度を理解する。2. 所属する医療・福祉の現場で提供するサービスは社会保障に関する法、社会福祉に関する法によって制定されていることを理解する。3. 各法は独立した法でなく、関連していることを理解し活用できるようにする。4. 学生自身が社会人、家庭人として、各々の実生活に関係している制度、義務、権利を理解し、卒業後、社会人として、各法の遵守することも目的とする。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「我が国の社会保障制度の概要」 「社会保障入門」総論ⅠⅡ 一般目標 社会保障制度の種類を理解する。	「我が国の社会保障制度の概要」 到達目標 ① 社会保険制度の種類を挙げるができる。 ② 社会福祉制度における支援の種類を挙げるができる。	葛谷桂司
2	前期	「医療保険制度」 「社会保障入門」各論Ⅱ 保健医療 一般目標 ① 医療保険制度の仕組みを理解する。	「医療保険制度」 到達目標 ① 健康保険制度の加入要件について説明できる。 ② 健康保険、国民健康保険の違いを説明できる。	葛谷桂司

		② 医療保険制度の種類を理解する。	③ 健康保険制度の保険料納付、給付に関する内容を説明できる。 ④ 国民健康保険制度の加入要件について説明できる。 ⑤ 国民健康保険の制度の保険料納付、給付について説明できる。	
3	前期	「年金制度」 社会保障入門」各論Ⅲ「年金・労働保険」「社会保障の手引」社会保険制度 一般目標 ① 年金制度の仕組みを理解する。 ② 国民年金、厚生年金の構成を理解する。	「年金制度」 到達目標 ① 年金制度の目的を説明できる。 ② 国民年金、厚生年金の加入要件、納付について説明できる。 ③ 年金の受給資格について説明できる。 ④ 国民年金、厚生年金の給付の種類を挙げることができる。	葛谷桂司
4	前期	「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」 社会保障入門」各論Ⅲ「年金・労働保険」「社会保障の手引」社会保険制度 一般目標 ① 雇用保険制度の目的を理解する。 ② 雇用保険制度の内容を理解する。 ③ 労働者災害補償保険の目的を理解する。 ④ 労働者災害補償保険の内容を理解する。	「雇用保険制度と労働者災害補償保険制度」 到達目標 ① 雇用保険制度の目的を説明できる。 ② 雇用保険の加入要件、事業主の義務を説明できる。 ③ 雇用保険加入労働者の権利、失業給付等の給付要件、給付の種類・内容を説明できる。 ④ 労働者災害補償保険の目的を説明できる。 ⑤ 被災者に対する給付の種類を説明できる。 ⑥ 認定を受けた者の社会復帰に関する内容を説明できる。	葛谷桂司
5	前期	「児童・ひとり親家庭の福祉」 「社会保障入門」各論Ⅱ総論⑨～ ⑭「社会保障の手引」「児童の福祉」 一般目標 児童福祉は妊娠、出産時から始	「児童・ひとり親家庭の福祉」 到達目標 ① 児童福祉法の目的を説明できる。 ② 児童の種類を挙げることができる。 ③ 児童相談所をはじめとする機関の役割を説明できる。	葛谷桂司

		<p>まり、心身とも健全な養育をすることで、子どもは養育される。通常の生活では保育所通園、幼稚園通学から就学の流れて健全な生活が保障されている。</p> <p>① 児童福祉法で保障されている児童の権利に対しての行政サービスの概要を紹介、保護者のいない児童の自立に活用できるサービス、児童虐待防止に関わる内容を理解する。</p> <p>③ 児童を取り巻く環境のうち、家庭の形態の変化、父又は母親との離死別等によりひとり親となった家庭に対して、「母子及び父子並びに寡婦福祉法」を基に提供する福祉サービス内容理解する。</p> <p>④ 家族形態・就労形態等の変化に伴い、「子どもの貧困」の問題がクローズアップされている。これは別単元の「生活保護受給者・生活困窮者の支援」と関連していること。子どもだけの問題ではなく、その家族に対する支援内容を理解する。</p>	<p>④ 社会的養護の内容を説明できる。</p> <p>⑤ 子ども・子育て支援制度の概要を説明できる。</p> <p>⑥ 児童福祉施設の種類・支援内容を挙げることができる。</p> <p>⑦ 児童虐待に関する定義・責務を説明できる。</p> <p>⑧ ひとり親家庭の定義、ひとり親家庭への支援について説明できる。</p>	
6	前期	<p>「母子保健制度」</p> <p>「社会保障入門」各論社会福祉⑤</p> <p>「社会保障の手引」母子保健</p> <p>一般目標</p> <p>① 母子保健法の目的を理解する。</p> <p>② 生まれる前と生まれた直後の児童および母親の健康のため、保健指導・健康診査・</p>	<p>「母子保健制度」</p> <p>到達目標</p> <p>① 母子健康手帳の申請・交付の内容を説明できる。</p> <p>② 訪問指導の内容を説明できる。</p> <p>③ 妊産婦の訪問指導、未熟児の訪問指導、未熟児の養育医療について説明できる。</p> <p>④ 未熟児の基準を説明できる。</p>	

		<p>医療サービスを行う制度の内容を理解する。</p> <p>③ 乳児を新生児、未熟児、低体重児で分類し、サービス提供を行っていることを理解する。</p>	<p>⑤ 1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査の内容、事後指導について説明できる。</p> <p>⑥ 妊産婦及び乳幼児健康診査について説明できる。</p> <p>⑦ 妊産婦高血圧症候群等の療育援護について説明できる。</p> <p>⑧ B型肝炎母子感染事業の内容を説明できる。</p> <p>⑨ 先天性代謝異常等検査事業の内容を説明できる。</p> <p>⑩ マタニティマークをとおした「妊産婦にやさしい環境づくり」の推進について説明できる。</p>	
7	前期	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」</p> <p>「社会保障入門」各論社会福祉⑮</p> <p>「社会保障の手引」生活保護、生活困窮者との支援</p> <p>一般目標</p> <p>① 生活保護制度の法的根拠を理解する。</p> <p>② 生活保護制度の内容を理解する。</p> <p>③ 生活困窮者自立支援法の内容を理解する。</p> <p>④ 婦人保護事業の内容を理解する。</p> <p>⑤ 災害救助法の内容を理解する。</p>	<p>「生活保護制度と生活困窮者の支援」</p> <p>到達目標</p> <p>① 生活保護法の法的根拠を説明できる。</p> <p>② 最低生活保障と自立助長を説明できる。</p> <p>③ 生活保護の基本原則を説明できる。</p> <p>④ 生活保護の基本原則を説明できる。</p> <p>⑤ 生活保護の種類を挙げることができる。</p> <p>⑥ 保護の実施機関と保護の実施について説明できる。</p> <p>⑦ 被保護者の責務を説明できる。</p> <p>⑧ 不正受給、不適正受給対策について説明できる。</p> <p>⑨ ワークフェアとソーシャルインクルージョンについて説明できる。</p> <p>⑩ 生活保護法に規定されている保護施設の種類とサービスの内容を説明できる。</p> <p>⑪ 生活困窮者自立支援法の概要を説明できる。</p> <p>⑫ 生活困窮者自立支援法に規定されている支援事業の内容を説明できる。</p>	葛谷桂司

			<p>⑬ 婦人保護事業の実施機関、実施主体を説明できる。</p> <p>⑭ 災害救助法の目的を説明できる。</p> <p>⑮ 災害救助の種類を説明できる。</p> <p>⑯ 災害救助法に規定されている強制権を説明できる。</p> <p>⑰ 日本赤十字社の役割を説明できる。</p>	
8	前期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」</p> <p>「社会保障入門」各論社会福祉⑯～⑳「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」</p> <p>一般目標</p> <p>① 障害者基本法の内容を理解する。</p> <p>② 障害者差別に関する規定を理解する。</p> <p>③ 障害の法規定を理解する。</p> <p>④ 障害者（児）支援に関する行政機関のサービス提供の内容を理解する。</p> <p>⑤ 障害児の保健福祉について理解する。</p>	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅰ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 障害者基本法の概要を説明できる。</p> <p>② 差別禁止に関する内容を説明できる。</p> <p>③ 障害種類（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害）を説明できる。</p> <p>④ 障害認定と障害者手帳の申請から交付の流れを説明できる。</p> <p>⑤ 身体障害者更生相談所の業務を説明できる。</p> <p>⑥ 知的障害者更生相談所の業務の内容を説明できる。</p> <p>⑦ 精神保健福祉センターの業務の内容を説明できる。</p> <p>⑧ 児童相談所の障害児に対する業務の内容を説明できる。</p> <p>⑨ 障害児施設の種類を説明できる。</p>	葛谷桂司
9	前期	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」</p> <p>「社会保障入門」各論社会福祉⑯～⑳「社会保障の手引」「障害者の保健福祉」</p> <p>一般目標</p> <p>① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の内容を理解する。</p> <p>② 障害者総合支援法に基づく支援内容を理解する。</p>	<p>「障害者（児）の保健福祉Ⅱ」</p> <p>到達目標</p> <p>① 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律」（以下障害者総合支援法）の目的、理念を説明できる。</p> <p>② 障害者総合支援法に規定されている行政の役割を説明できる。</p> <p>③ 障害者総合支援法に規定されているサービス受給のための申請から認定の流れを説明できる。</p> <p>④ 障害者総合支援法に規定されている給付サービスの内容を説明できる。</p>	葛谷桂司

		<p>③ 障害者虐待の問題を理解する。</p> <p>④ 発達障害者支援法の内容を理解する。</p>	<p>⑤ 障害者虐待の内容を説明できる。</p> <p>⑥ 発達障害者支援法の主旨を説明できる。</p> <p>⑦ 発達障害の定義を説明できる。</p> <p>⑧ 発達障害者支援法の基本理念を説明できる。</p> <p>⑨ 発達障害者支援法に規定されている支援の内容を説明できる。</p> <p>⑩ 発達障害者支援センターの実施主体、利用者について説明できる。</p> <p>⑪ 発達障害者支援センターの事業の内容を説明できる。</p> <p>⑫ 発達障害者支援センター内の職員配置について説明できる。</p>	
10	前期	<p>高齢者の保健福祉</p> <p>「社会保障入門」各論 社会福祉</p> <p>④～⑧「社会保障の手引」高齢者の保健福祉</p> <p>一般目標</p> <p>① 高齢者福祉の歴史の概要を理解する。</p> <p>② 介護保険の概要を理解する。</p> <p>③ 介護保険における支援対象者、提供サービスについて理解する</p> <p>④ 高齢者の権利擁護について理解する。</p> <p>⑤ 高齢者の虐待とその防止について理解する。</p> <p>⑥ 介護予防の内容を理解する。</p> <p>⑦ 認知症施策の内容を理解する。</p> <p>⑧ 新オレンジプランの内容を理解する。</p>	<p>「高齢者の保健福祉」</p> <p>到達目標</p> <p>① 現行の介護保険法成立までの変遷を説明できる。</p> <p>② 介護保険法創設について説明できる。</p> <p>③ 介護保険法の目的を説明できる。</p> <p>④ 介護保険法に規定されている保険者・被保険者について説明できる。</p> <p>⑤ 介護保険法に規定されている資格取得、喪失について説明できる。</p> <p>⑥ 保険事故について説明できる。</p> <p>⑦ 要介護状態、要支援状態について説明できる。</p> <p>⑧ 要介護、要支援認定について説明できる。</p> <p>⑨ 介護保険料の徴収について説明できる。</p> <p>⑩ 介護サービス提供までの流れを説明できる。</p> <p>⑪ 介護給付の内容を名称ごとに説明できる。</p> <p>⑫ 権利擁護の日常生活自立支援事業の内容を説明できる。</p>	葛谷桂司

			<ul style="list-style-type: none"> <li>⑬ 高齢者虐待について説明できる。</li> <li>⑭ 高齢者虐待の種類を説明できる。</li> <li>⑮ 介護保険法に規定されている高齢者福祉施設の種類、内容を説明できる。</li> <li>⑯ 介護予防の目的を説明できる。</li> <li>⑰ 介護予防サービスの種類を説明できる。</li> <li>⑱ 訪問型サービスの内容を説明できる。</li> <li>⑲ 通所型サービスの内容を説明できる。</li> <li>⑳ 一般介護予防事業の目的を説明できる。</li> <li>㉑ 一般介護予防事業の種類、内容を説明できる。</li> <li>㉒ 認知症施策の流れを説明できる。</li> <li>㉓ 新オレンジプランの基本的な考えを説明できる。</li> <li>㉔ 新オレンジプランの「七つの柱」を説明できる。</li> </ul>	
11	前期	<p>社会福祉援助技術 別資料配布 一般目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会福祉援助技術の目的を理解する。</li> <li>② 個別援助技術（ケースワーク）の流れを理解する。</li> <li>③ ナラティブ・アプローチの内容を理解する。</li> <li>④ 集団援助技術の内容を理解する。</li> <li>⑤ 間接援助技術の内容を理解する。</li> <li>⑥ 関連援助技術の内容を理解する。</li> <li>⑦ 社会福祉援助の検討課題を理解する。</li> </ul>	<p>社会福祉援助技術 到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会福祉援助技術の法的根拠を説明できる。</li> <li>② 個別援助技術の流れの中でアセスメントから終結までの内容を説明できる。</li> <li>③ ナラティブ・アプローチの内容を説明できる。</li> <li>④ 集団援助技術の内容を説明できる。</li> <li>⑤ コミュニティワークの内容を説明できる。</li> <li>⑥ 社会福祉調査法の内容を説明できる。</li> <li>⑦ 社旗福祉運営管理の内容を説明できる。</li> <li>⑧ 社会活動法の内容を説明できる。</li> <li>⑨ 社会福祉計画法の内容を説明できる。</li> </ul>	葛谷桂司

			<p>⑩ 関連援助技術の種類を挙げ、内容を説明できる。</p> <p>⑪ 社会福祉援助の課題として、支援対象者との関係、社会との関係を述べることができる。</p>	
12	前期	試験とまとめ	<p>① 第11回までの講義の振り返りを行う。</p> <p>② 試験</p>	葛谷桂司
成績評価方法		科目試験		
準備学習など		<p><b>1. 講義の進め方について</b></p> <p>テキストのページの順序では講義は進めません。シラバスで必ず、確認して受講前の準備をしてください。</p> <p><b>2. 準備について</b></p> <p>次のことを準備してください。</p> <p>1. 中央法規 社会保障入門をシラバスで確認して予習すること。</p> <p>2. 中央法規 社会保障の手引は付属のインデックスを貼って、準備しておくこと。</p> <p>3. 「社会保障入門」で基本を学習し、応用として「社会保障の手引」で各法の詳細を学ぶ形式で講義を進めます。</p> <p>4. 第11回社会福祉援助技術については別資料を使用します。</p> <p>5. 配布する「今日の復習」は必ず翌週講義までに解いておくこと。</p> <p>必ず問題を解いておくようにしてください。レポート課題を1度出します。</p> <p>初めて福祉に関する法律用語に触れる方もいると思います。現場で活躍するために必要な内容です。そのための準備として一緒に取り組みましょう。</p> <p>必ず問題を解いておくようにしてください。レポートについては、1回課題を出す予定です。</p>		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 2 学年	開講期間	前期
科目名	言語聴覚障害診断学Ⅱ（成人）		
担当者	大内田潤子・西脇克浩・百々加奈子・天白陽介・諸橋麻衣子		
単位数（時間数）	2 単位（40 時間）	履修方法	講義・演習
教科書・参考書	言語聴覚療法臨床マニュアル 協同医書出版 言語聴覚士テキスト 医歯薬出版 病気がみえる メディクメディア 標準失語症検査マニュアル 新興医学出版社		

授業概要
言語聴覚臨床における知識面と実技面の試験を実施する
授業の目的（意義）
言語聴覚臨床における知識面と実技面の試験を実施することで、自己の客観的な臨床能力を知り、今後の学習に資することを目的とする なお、言語聴覚士として臨床経験のある教員がその経験を活かし授業を担当する
関連する学科の DP
①国家試験に合格できる知識を身に着けている ②言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ③正確な評価技術を身に着け、効果的なりハビリテーションを実践する ④信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身に着ける ⑤専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「口頭試問、OSCE（実技試験）について」 口頭試問、OSCE（実技試験）についての実施方法を理解する	「口頭試問、OSCE（実技試験）について」 口頭試問、OSCE（実技試験）についての実施方法を説明できる	大内田潤子 西脇克浩 百々加奈子 天白陽介 諸橋麻衣子
2	「実習の振り返りと目標設定」 見学実習の目標を踏まえて実習を見直し、今後の課題点を理解する	「見学実習の振り返り」 見学実習の良かった点、不足した点を説明できる。 「目標設定」 今後の実習に向けて、目標を設定できる。	大内田潤子 西脇克浩 百々加奈子 天白陽介 諸橋麻衣子
3-20	「口頭試問、OSCE（実技試験）演	「口頭試問、OSCE（実技試験）の実施」	大内田潤子

	習」 口頭試問において質問事項に答える	MMSE,HDR-R等について理解し実施できる 「標準予防策、リスク管理」「コミュニケーション技法、駆動介助」について理解し、それぞれについて実践できるようになる。 ・口頭試問において基準レベルを超える解答ができる	西脇克浩 百々加奈子 天白陽介 諸橋麻衣子
成績評価方法	口頭試問 28 点満点、臨床実技試験点 72 の合計 100 点満点で実施		
準備学習/事後学習	該当検査の実施手順や手技など、実際の患者さんに行うことを想定してマニュアルに目を通しておいてください。また実際の臨床現場で患者さんに対応することを想定するので、礼節や振る舞い等も意識しておけると良いでしょう。		
関連科目	『言語聴覚障害概論』『高次脳機能障害』『失語症』『臨床神経学』		
その他（履修者へのアドバイス等）			

学科・年次	言語聴覚科 2学年	
科目名	失語症Ⅲ（評価・訓練・症例検討）	
担当者	辰巳 寛	
単位数（時間数）	2単位 （50時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 標準言語聴覚障害学 失語症学 藤田 郁代 医学書院	参考書 高次脳機能障害学 第2版 石合純夫 医歯薬出版株式会社

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>失語症リハビリテーション経験のある教員がその経験を踏まえ、一般の臨床現場で行われている失語症の実践的知識と技能、評価実技、治療プログラムの立案と実際、および具体的なリハビリテーション理論と手技について指導する。</p> <p>授業目的</p> <p>臨床失語症学に関する応用的知識を習得し、実際の臨床現場で求められる失語症リハビリテーションに関する専門的知識と技能を身につける。</p> <p>なお、言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かして授業を行う。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「失語症の訓練と援助」 リハビリテーション過程の全体を把握し、障害の諸側面やチーム連携について理解する。	「失語症の訓練と援助」 全体的なリハビリテーション過程を踏まえた上で、障害の諸側面やチーム連携について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
2	前期	「失語症の治療理論と技法1」 古典的失語治療理論と技法について理解する。	「失語症の治療理論と技法1」 古典的失語治療理論と技法について、実践的に説明できる。	辰巳 寛
3	前期	「失語症の治療理論と技法2」 機能再編成法の理論と技法について理解する。	「失語症の治療理論と技法2」 機能再編成法の理論と技法について、実践的に説明できる。	辰巳 寛
4	前期	「失語症の治療理論と技法3」 誤用論的アプローチの理論と技法について理解する。	「失語症の治療理論と技法3」 誤用論的アプローチの理論と技法について、具体的に説明できる。	辰巳 寛

5	前期	「失語症の治療理論と技法4」 認知神経心理学的アプローチの理論と技法について理解する。	「失語症の治療理論と技法4」 認知神経心理学的アプローチの理論と技法について、具体的に説明できる。	辰巳 寛
6	前期	「失語症の治療理論と技法5」 拡大・代替コミュニケーション手段アプローチの理論と技法について理解する。	「失語症の治療理論と技法5」 拡大・代替コミュニケーション手段アプローチの理論と技法について、具体的に説明できる。	辰巳 寛
7	前期	「失語症の訓練適応と予後予測」 失語症の訓練適応と予後予測に関して理解する。	「失語症の訓練適応と予後予測」 失語症の訓練適応と予後予測に関して、簡単に説明できる。	辰巳 寛
8	前期	「後天性小児失語症1」 後天性小児失語症の定義と症候、臨床像について理解する。	「後天性小児失語症1」 後天性小児失語症の定義と症候、臨床像について、簡単に説明できる。	辰巳 寛
9	前期	「後天性小児失語症2」 後天性小児失語症の診断と評価、学習指導、環境調整などについて理解する。	「後天性小児失語症2」 後天性小児失語症の診断と評価、学習指導、環境調整などについて、簡単に説明できる。	辰巳 寛
10	前期	「スクリーニング演習」 初回面接における失語症のスクリーニング検査について理解する。	「スクリーニング演習」 初回面接時に実施する失語スクリーニング検査の実際について、具体的に説明できる。	辰巳 寛
11	前期	「演習1」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「Broca 失語の臨床ケース分析」 Broca 失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
12	前期	「演習2」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「Wernicke 失語の臨床ケース分析」 Wernicke 失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
13	前期	「演習3」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「伝導失語の臨床ケース分析」 伝導失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛

14	前期	「演習 4」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「健忘失語の臨床ケース分析」 健忘失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
15	前期	「演習 5」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「Jargon 失語の臨床ケース分析」 Jargon 失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
16	前期	「演習 6」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「超皮質性感覚失語の臨床ケース分析」 超皮質性感覚失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
17	前期	「演習 7」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「超皮質性運動失語の臨床ケース分析」 超皮質性運動失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
18	前期	「演習 8」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「超皮質性混合失語の臨床ケース分析」 超皮質性混合失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
19	前期	「演習 9」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「全失語の臨床ケース分析」 全失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
20	前期	「演習 10」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「視床性失語の臨床ケース分析」 視床性失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
21	前期	「演習 11」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「線条体失語の臨床ケース分析」 線条体失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛

22	前期	「演習 12」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「発達性小児失語の臨床ケース分析」 Broca 失語の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
23	前期	「演習 13」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「失語・失行・失認合併例の臨床ケース分析」 失語・失行・失認合併例の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
24	前期	「演習 14」 SLTA プロフィール分析と検査報告書、訓練計画書の立案について理解する。	「認知症を合併する失語症患者の臨床ケース分析」 認知症を伴う失語症者の SLTA プロフィール分析を行い、検査報告書の作成、訓練計画書の立案、訓練の実技ができるようになる。	辰巳 寛
25	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて失語症の概要を理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができる。	辰巳 寛
成績評価方法		学科試験にて 100 点満点のマークシート方式（5 択）です。		
準備学習など		言語聴覚士にとって失語症学は必要不可欠な講義です。臨床現場で必須の知識と技能を習得できる内容ですので、積極的に取り組んで下さい。講義終了前後に質問時間を設けますので、積極的に質問してください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 2学年	
科目名	失語症Ⅳ（スクリーニング、訓練プログラムの作成）	
担当者	辰巳 寛	
単位数（時間数）	1単位 （30時間）	
学習方法	講義・演習	
教科書・参考書	教科書 標準言語聴覚障害学 失語症学 藤田 郁代 医学書院	参考書 高次脳機能障害学 第2版 石合純夫 医歯薬出版株式会社

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <p>失語症リハビリテーション経験のある教員がその経験を踏まえ、さまざまな高次脳機能障害を併発している失語症者の臨床評価、および治療プログラムの立案、具体的なリハビリテーション理論と手技について指導する。</p> <p>授業目的</p> <p>臨床失語症学に加えて、応用的高次脳機能障害学に関する知識を習得し、実際の臨床現場で経験することの多い臨床ケースをもとに、評価とアプローチの実技を身につける。</p> <p>なお、言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かして授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「失語症検査分析の実際」 標準失語症検査 SLTA のプロフィール解析と病態把握について理解する。	「失語症検査分析の実際」 標準失語症検査 SLTA のプロフィール解析と病態把握について、実践的に説明できる。	辰巳 寛
2	前期	「グループ演習1」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表1」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
3	前期	「グループ演習2」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表2」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛

4	前期	「グループ演習3」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表3」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
5	前期	「グループ演習4」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表4」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
6	前期	「グループ演習5」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表5」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
7	前期	「グループ演習6」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表6」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
8	前期	「グループ演習7」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表7」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
9	前期	「グループ演習8」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表8」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
10	前期	「グループ演習9」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表9」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛

11	前期	「グループ演習 10」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表 10」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
12	前期	「グループ演習 11」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表 11」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
13	前期	「グループ演習 12」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表 12」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
14	前期	「グループ演習 13」 臨床に必要な多角的な視点と評価技能を習得する。	「グループ発表 13」 DVDにて評価を行ったケースについて発表し、カンファレンス形式のディスカッションを行うことで、より良い評価と訓練立案ができるようになる。	辰巳 寛
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験とまとめを通じて失語症の概要を理解する。	「学科試験」 科目試験の問題を解くことができる。	辰巳 寛
成績評価方法		学科試験にて 100 点満点のマークシート方式（5 択）です。		
準備学習など		言語聴覚士にとって失語症学は必要不可欠な講義です。臨床現場で必須の知識と技能を習得できる内容ですので、積極的に取り組んで下さい。講義終了前後に質問時間を設けますので、積極的に質問してください。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 2 学年
科目名	高次脳機能障害Ⅱ（評価・訓練・症例検討）
担当者	辰巳 寛
単位数（時間数）	1 単位(30 時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書 ・ 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第2 版 藤田郁代 医学書院 参考書 ・ 高次脳機能障害のリハビリテーション 第3 版 本田哲三 医学書院

授業概要と目的
<p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高次脳機能障害の評価、リハビリテーション、支援の立案から実施まで指導する。</li> </ul> <p>授業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切な評価・診断、リハビリテーション、支援の立案が行えるようになる。</li> </ul> <p>なお、言語聴覚士として臨床経験のある講師がその経験を活かして授業を行う</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「神経心理学検査」 神経心理学的検査の概要を 理解する	「神経心理学検査について」 神経心理学的検査名およびその概要 が記述できる。	辰巳 寛
2	前期	「知的機能検査」 知的機能検査 (WAIS-IV) について理解する。	「知的機能検査について」 実施方法、評価方法を手引き、資料 を見ながら実施できる。	辰巳 寛
3	前期	「知的機能検査」 知的機能検査 (MMSE、 HDS-R、RCPM、ADAS- Jcog、MOCA-J) について 理解する。	「知的機能検査について」 実施方法、評価を手引き、資料を見 ながら実施できる。	辰巳 寛
4	前期	「注意機能検査」 注意機能検査(CAT、TMT- J)について理解する。	「注意機能検査について」 実施方法、評価を手引き、資料を見 ながら実施し、リハビリテーショ ン、支援方法が立案できる。	辰巳 寛

5	前期	「記憶・記銘力検査」 記憶・記銘力検査(日本版 RBMT、WMS-R)について 理解する。	「記憶・記銘力検査について」 実施方法、評価を手引き、資料を見 ながら実施できる。	辰巳 寛
6	前期	「記憶・記銘力検査」 記憶・記銘力検査 (Rey の 複雑図形、Benton 視覚記銘 力検査,標準言語性対連合学 習検査、AVLT) について理 解する。	「記憶記名検査について」 実施方法、評価を手引き、資料を見 ながら実施できる。	辰巳 寛
7	前期	「記憶障害のリハビリ」 記憶障害に対するリハビリ テーション、支援方法につ いて理解する。	「記憶障害のリハビリについて」 検査結果から、症例に即したリハビリ テーション、支援方法が立案でき る。	辰巳 寛
8	前期	「失行検査」 失行検査 (標準高次動作性 検査) について理解する。	「失行検査について」 手引き、資料を見ながら実施、検査 結果から、症例に即したリハビリテ ーション、支援方法が立案できる。	辰巳 寛
9	前期	「失認検査」 失認検査 (標準高次視知覚 検査等) について理解す る。	「失認検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検 査結果から、症例に即したリハビリ テーション、支援方法が立案でき る。	辰巳 寛
10	前期	「視空間認知」 視空間認知 (半側空間無視 等) 機能検査、(BIT 行動無 視検査)について理解する。	「失認検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検 査結果から、症例に即したリハビリ テーション、支援方法が立案でき る。	辰巳 寛
11	前期	「失認検査」 失認検査 (視覚認知、左右 障害、手指失認、失算等) について理解する。	「失認検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検 査結果から、症例に即したリハビリ テーション、支援方法が立案でき る。	辰巳 寛
12	前期	「前頭葉機能検査」 前頭葉機能検査 (新修正 WCST Stroop Test、FAB 等)、遂行機能検査	「前頭葉機能検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検 査結果から、症例に即したリハビリ テーション、支援方法が立案でき	辰巳 寛

		(BADS) について理解する。	る。	
13	前期	「前頭葉機能検査」 前頭葉機能検査（新修正 WCST Stroop Test、FAB 等）、遂行機能検査（BADS）について理解する。	「前頭葉機能検査について」 手引き、資料を見ながら実施し、検査結果から、症例に即したリハビリテーション、支援方法が立案できる。	辰巳 寛
14	前期	「認知症の評価」 認知症に関する神経心理学的側面からの評価法を用いた評価について理解する。	「認知症の評価について」 手引き、資料を見ながら実施し、検査結果から、症例に即した、支援方法が立案できる。	辰巳 寛
15	前期	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて高次脳機能障害リハビリテーションを理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができる。	辰巳 寛
成績評価方法		学科試験（マーク式）にて 100 点満点で評価する。		
準備学習など		高次脳機能障害 I で学んだ基礎的内容をしっかりと復習しておく。		
留意事項		特になし		

学科・年次	言語聴覚科 2 学年	開講期間	前期 後期 通年
科目名	構音障害IV (器質性)		
担当者	森 智子		
単位数 (時間数)	1 単位 (30 時間)	履修方法	講義・演習
教科書・参考書	教科書 クリア言語聴覚療法 5 小児発声発語障害 (建帛社) 参考書 言語聴覚療法シリーズ 8 器質性構音障害 (建帛社)		

授業概要
器質性構音障害の評価訓練の経験のある教員が、その障害の機序や臨床で実施される評価及び訓練について指導する。
授業の目的 (意義)
器質性構音障害の定義、機序、症状について理解し、これに基づいて評価・訓練を実施できるようになる。
関連する学科の DP
ST として必要な知識と技能を習得している

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「概論」 構音障害の定義について理解する。	「構音障害・主に器質性構音障害の定義と機序」 構音障害の定義、種類、特に器質性構音障害の機序について理解し説明できる。	森 智子
2	「口蓋裂言語について」 器質性構音障害の主となる口蓋裂言語について理解する。	「口蓋裂言語 鼻咽腔閉鎖機能と閉鎖不全について」 口蓋裂について、鼻咽腔閉鎖機能及び閉鎖不全が構音にどう影響を及ぼすかを理解し説明できる。	森 智子
3	「評価」 口蓋裂言語の評価の概要、検査の種類について理解する。	「鼻咽腔閉鎖機能検査の種類」 鼻咽腔閉鎖機能検査の種類とその検査を行う目的を理解し説明できる。	森 智子
4	「評価」 口蓋裂言語の評価の概要、検査の種類について理解する。	「口蓋裂言語検査」 言語聴覚士が行う口蓋裂言語検査の概要について理解し説明できる。	森 智子
5	「評価」 口蓋裂言語の評価の概要、検査の種類について理解する。	「構音障害の種類と特徴」 構音障害の種類・特徴について理解・説明できる。	森 智子
6	「評価」	「異常構音の特徴」 各異常構音の定義と特徴について説明できる。	森 智子

	口蓋裂言語の評価の概要、検査の種類について理解する。		
7	「演習」 臨床現場に必要な技術を身につける。	「口蓋裂言語検査」 口蓋裂言語検査のDVDを視聴し手順を説明できる。	森 智子
8	「演習」 臨床現場に必要な技術を身につける。	「口蓋裂言語検査」 実際に言語検査の手順を理解し実施できる。	森 智子
9	「演習」 臨床現場に必要な技術を身につける。	「新版構音検査」 構音検査の手順を理解し実施できる。	森 智子
10	「演習」 臨床現場に必要な技術を身につける。	「新版構音検査」 検査結果のまとめ方を理解し説明できる。	森 智子
11	「口蓋裂言語の治療・訓練」 口蓋裂言語に対する治療と訓練内容を理解する。	「鼻咽腔閉鎖不全に対する治療」 外科的治療、補綴的治療について理解し説明できる。	森 智子
12	「口蓋裂言語の治療・訓練」 口蓋裂言語に対する治療と訓練内容を理解する。	「構音訓練」 構音障害に対する言語訓練を理解し説明できる。	森 智子
13	「腫瘍による構音障害」 腫瘍による構音障害に対する治療と訓練内容を理解する。	「腫瘍による構音障害の特徴」 腫瘍による構音障害の特徴を理解し説明できる。	森 智子
14	「腫瘍による構音障害の検査・訓練・演習」 臨床現場に必要な技術を身につける。	「評価・訓練」 評価の種類・方法を理解し説明できる。	森 智子
15	「科目試験とまとめ」 科目試験を通じて構音障害IVの概要について理解する。	「科目試験とまとめ」 科目試験の問題を解くことができる。	森 智子
成績評価方法	学科試験。100点満点で行います。○×20%、穴埋め30%、記述式50%。		
準備学習/事後学習	1年時に学習した構音障害に関連する内容は目を通しておいください。		
関連科目	歯科口腔外科学、機能的構音障害など		
その他（履修者へのアドバイス等）	器質性構音障害は、臨床現場で出会う回数は少ないかもしれませんが、ST独自の高い専門性が求められる分野です。適切な評価を行えるようになるために、演習を交えながら授業を進めます。		

学科・年次	言語聴覚科 2年次	開講期間	前期 後期 通年
科目名	嚥下障害Ⅱ（総合・演習）		
担当者	西脇克浩		
単位数（時間数）	2単位（40時間）	履修方法	講義 演習(一部)
教科書・参考書	最新言語聴覚学講座「摂食嚥下障害学」医歯薬出版株式会社		

授業概要
言語聴覚士が対象とする分野の一つである摂食・嚥下障害について、臨床実習や実際の現場に繋がるための知識や技術を学び、その意義、目的、方法を理解する。なお、言語聴覚士として病院にて臨床経験のあるものが授業を担当する
授業の目的（意義）
本科目は「嚥下障害Ⅰ」で学んだ基礎内容を踏まえて、摂食・嚥下障害分野の応用的技術と知識の習得を目的とする。具体的にはスクリーニング検査や画像評価、嚥下障害の様々な病態に対応するための訓練法や援助方法について学ぶ。最終的には実践的なリハビリテーションに繋げる為の理解を養う事を目的とする。また小児領域についても取り上げその概要を理解し国家試験に対応できる知識を得ることを目的とする
関連する学科の DP
国家試験に合格できる知識を身に着けている 言語聴覚士としての専門的な知識を持ち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる 正確な評価技術を身に着け、効果的なリハビリテーションを実践する

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	講義・演習 「復習」(摂食嚥下に関わる器官の解剖の復習) 「確認」スクリーニングの触診位置確認	器官の名称を側面解剖図へ記入することができる。演習を通じてスクリーニングで触診する筋や骨の位置を正しく理解し触ることができる。	西脇 克浩
2	講義 「疾患別特徴について」疾患別の病態と摂食嚥下障害の発生要因を理解し EBP に基づく治療へ繋ぐ基盤を形成する。	各疾患による摂食嚥下障害の病態を学び、疾患と症状との関連を理論的に説明することができる。	西脇 克浩
3	講義「各病期について」急性期・回復期など各ステージで言語聴覚士が摂食嚥下障害の患者とどう関わるかを理解する	摂食・嚥下障害において各病期における ST の役割を理解することができる。業務内容の違いや共通点を把握することができる。将来の進路や就職先を選択する際の判断に参考にすることができる。	西脇 克浩

4	講義「外科的治療法について」 「薬剤と嚥下障害について」 嚥下障害に関わる外科的な治療法 や薬剤と嚥下障害の関係について 学ぶ	様々な外科的治療法について理解する。誤嚥防止 術と嚥下機能改善術についての違いを理解する。 気管切開術の目的や理解解剖図を理解する。カニュー ーレの種類やその機能について理解する。また薬 剤と摂食嚥下障害の関係性について、それぞれの 利点と欠点を理解することができる。	西脇 克浩
5	講義「摂食嚥下機能の年齢的变化と その障害について」小児の嚥下障害 や後期高齢者の身体変化が原因に よる嚥下機能の低下を理解する	小児の嚥下機能の発達と特徴を理解でき障害と メカニズムを理解することができる。また、高齢 者の身体変化と摂食嚥下器官機能の変化を学び その特性を理解し、臨床現場で見られることの多 い超高齢者の嚥下障害を理解する。	西脇 克浩
6	講義「栄養とリハビリテーション」 栄養とリハビリテーションの関わり について理解する。代替栄養法と その種類について理解する	リハビリを進める際の栄養の重要性を学ぶ。栄養 と摂食嚥下リハビリとの関係について理解する。 また、代替栄養法の種類を学び、摂食嚥下障害患 にかかわる栄養摂取法を理解することができる。	西脇 克浩
7	講義・演習「スクリーニング検査に ついて」摂食嚥下障害のスクリー ニングの手技を修得する。また評価視 点等も含めて理解する。	摂食嚥下スクリーニングについての手技を修得 し実施できるようになる。評価ポイントを理解 し、患者の評価に繋げることができる。	西脇 克浩
8	演習「頸部聴診法」 摂食嚥下障害患者のスクリーニ ングや評価の際に使用する頸部聴診 法をについて理解する。	摂食嚥下障害の評価における聴診器の使い方 を理解することができる。いくつかある評価手技 を実践し評価のポイント等を理解することがで きる。	西脇 克浩
9		嚥下障害Ⅰで学習した検査概要や目的を復習す る。画像診断において正常像を把握する。器官の 位置を正確に記述することができる(正面像/側面 像)摂食嚥下リハ学会推奨の評価用紙を使用し、 画像上の観察ポイントを理解する	西脇 克浩
10	「嚥下造影(VF)検査」 検査の目的を理解する。画像評価 を実践する。画像所見をどのよう に摂食嚥下障害の評価に繋げるの かを理解する。	実際のVF検査画像(異常所見)を診ながら正常 と異常の判断が得られるようになる。前回(第7 回)の授業で述べたポイントを参考にしながら評 価することができる。画像上の問題点について考 えを発言することができる。	西脇 克浩
11		PAS について 現在、臨床現場で利用されているVF検査評価法 PAS/point penetration-aspiration scale/につ	西脇 克浩

		いて理解する。実際の画像をみながら PAS による段階評価をつけることができる。	
12	「嚥下内視鏡(VE)検査」 検査の目的を理解する。VF 検査との特性の違いを理解する。画像評価を実践する。画像所見をどのように摂食嚥下障害の評価に繋げるのかを理解する。	嚥下障害 I で学習した検査概要や目的を復習する。VE 画像上で器官の位置を把握することができる。正確に器官の名称を記述できる。画像診断において正常像を把握する。摂食嚥下リハ学会推奨の評価用紙を使用して画像上の観察ポイントを理解する。	西脇 克浩
13		実際の VE 検査画像(異常所見)を確認し、正常と異常を判別することができる。何が異常かについて説明することができる。第 9 回に学習した観察ポイントを基に評価することができる。画像上の問題点について発言することができる。	西脇 克浩
14		Hyodo komagane スコアについて VE 画像診断において臨床現場で使用されることの多い評価尺度である兵頭スコアについて理解する。実際の患者の画像を診て兵頭スコアの採点をすることができる	西脇 克浩
15		講義 摂食嚥下訓練の訓練概要 嚥下訓練法には摂食訓練、基礎訓練など様々な種類が存在することを理解する。摂食嚥下リハビリテーションでは患者の病態によってさまざまな訓練法を複合して組合せ最善の治療に繋げるという事を理解する。	西脇 克浩
16	「嚥下訓練法」 摂食嚥下リハビリテーション学会が発表している「嚥下訓練法のまとめ」を参考資料にして様々な嚥下訓練法を理解する。 評価結果から根拠を基にした正しい訓練法の選択等、訓練に関する一連の流れを理解する。	演習 基礎(間接)訓練法について 基礎訓練の概要を理解する。動画をみて学生同士で実践しながら正しい訓練手技を習得する。わかりにくい所は都度教員が直接指導する。実施している訓練法がどの病態に適応されるのかも繋げて理解をする。	西脇 克浩
17	演習では学生同士で手技をしあいながら技術を修得する  参考資料	演習 基礎訓練および摂食訓練について 基礎訓練と摂食訓練のどちらも併用可能な訓練法について学ぶ。動画などで訓練手技を学び、学生同士で実践しながら手技を修得する。目的による訓練法の使い分け。基礎訓練から直接訓練の移行方法についても理解する	西脇 克浩

18	日本摂食嚥下リハビリテーション学会 訓練法のまとめ 2014 版	演習 嚥下直接訓練法について 摂食訓練法について学ぶ。動画などで訓練手技を学び、学生同士で実践しながら手技を修得する。実際の食品を使用する。なぜ、姿勢調整や角度調整等が必要なのかを考えながら実施することで理解を深める。	西脇 克浩
19		演習 実際の訓練法選択について 模擬患者を設定し医学的基礎情報、スクリーニング結果や VE、VF 画像を理解し、どのような支援や訓練法が適応になるのかをグループ内で意見交換を交わすことができる。	西脇 克浩
20	まとめと科目試験 まとめと科目試験で摂食嚥下障害の理解を深める	「まとめと科目試験」 科目試験の問題を解き、規定の点数をクリアすることができる	西脇 克浩
成績評価方法	出席は 2/3 以上の出席をもって科目試験受験を可とする。 最終講義に科目試験を実施し、100 点満点中 60 点以上を合格とする。 筆記試験は国家試験形式に準じた選択形式と、記述問題とする。		
準備学習/事後学習	<b>事前学習</b> /本教科は嚥下障害 I の内容の基に成り立つものであるため、講義の内容を十分に復習しておくことを推奨する。 <b>事後学習</b> /成人分野の実習では当分野の内容は必須となるため、実習前にも十分な内容の復習が望まれる。		
関連科目	嚥下障害 I その他解剖学や生理学など基礎医学系教科		
その他（履修者へのアドバイス等）	嚥下障害科目の応用編になりますので、履修に際しては嚥下障害 I の分野を理解しておく必要があります。わからないことは都度質問するようにしてください。		

学科・年次	言語聴覚科・2年次	開講期間	前期
科目名	聴覚障害Ⅲ（成人）		
担当者	林希朗		
単位数（時間数）	1単位（15時間）	履修方法	講義
教科書・参考書	中川尚志・廣田栄子 編著 『最新言語聴覚学講座 聴覚障害学』 医歯薬出版		

授業概要	
<p>本講義では、既習の聴覚医学（各部疾患等）や聴覚補償機器の知識を基盤とし、成人の聴覚障害を学ぶ。各疾患の病態を理解し、知識の定着を図る。</p> <p>その上で、臨床現場における適切なコミュニケーション技法を学び、難聴者の QOL 向上を目指したリハビリテーションの知識と技術を修得する。なお、言語聴覚士として臨床経験のあるものがその経験を活かして講義を担当する。</p>	
授業の目的（意義）	
<p>既習の聴覚系疾患および聴覚補償機器に関する基礎知識を整理し、支援の前提となる知識を定着させる。各疾患の病態と聞こえの特性を結びつけ、コミュニケーション上の障壁となる要因を理解する。</p> <p>難聴の種類や程度を評価し、臨床現場での聴覚特性に応じたコミュニケーション技法を身に着ける。</p> <p>聴覚活用や環境調整など、成人難聴者に対する具体的なリハビリテーションの知識と技術を習得する。</p>	
関連する学科の DP	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①国家試験に合格できる知識を身に着けている</li> <li>②言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる</li> <li>③正確な評価技術を身に着け、効果的なリハビリテーションを実践する</li> <li>④信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身に着ける</li> <li>⑤専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ</li> <li>⑥相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する</li> </ul>	

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「難聴疾患 1」 臨床活動に必要な難聴疾患の知識を学ぶ	「外耳・中耳疾患」 各種外耳・中耳疾患の症状、病態、治療について説明できる。	林希朗
2	「難聴疾患 2」 臨床活動に必要な難聴疾患の知識を学ぶ	「内耳疾患」 各種内耳疾患の症状、病態、治療について説明できる。	林希朗
3	「難聴疾患 3」 臨床活動に必要な難聴疾患の知識を学ぶ	「その他の難聴疾患と症候群」 後迷路性難聴、機能性難聴、その他の難聴について説明できる。	林希朗

		症候群性難聴と非症候群性難聴について症状の特徴と遺伝形式が説明できる。	
4	「成人聴覚障害者の概要」 成人聴覚障害者の現状と言語聴覚士とのかかわりについて学ぶ	「統計と障害の性質」 聴覚障害者の統計データの概要を説明できる。 失聴時期や難聴の程度、特性による性質やコミュニケーションについて説明できる。	林希朗
5	「成人聴覚障害者の評価とリハビリテーション」 成人聴覚障害の臨床活動の内容を学ぶ	「評価とリハビリテーション」 成人聴覚障害者に対する評価方法、コミュニケーション技法や構音訓練などのリハビリテーションの内容を理解し、実践できる。	林希朗
6	「聴覚保障機器と支援技法」 難聴者の困難・ニーズと対応方法について知る 難聴の特性や生活環境に応じた臨床活動について学ぶ	「難聴者への対応」 コミュニケーション支援、環境調整について説明できる。補聴器や人工内耳の装用に関して説明できる。	林希朗
7	「情報補償と代替支援」 聴覚障害者に対する情報補償の方法と実際について学ぶ 各種補助機器の仕組みと用途、使用方法について学ぶ	「聴覚障害者への情報補償と補助機器、代替支援」 情報保障として用いる手話通訳、要約筆記、ノートテイク、字幕の方法と実際について説明できる。 テレコミュニケーションの方法と補助機器について説明できる。 屋内信号装置その他の補助機器の用途や使用方法を説明できる。	林希朗
8	「まとめ・科目試験」	「全体の総括と科目試験」	林希朗
成績評価方法	筆記試験 80%（最終講義にて実施） 各回で配布する質問・感想シートの提出 20% *出欠の確認とします。		
準備学習/事後学習	下記関連科目の基礎的な内容を見直していただくと理解がスムーズかと思います。		
関連科目	『聴覚医学』『補聴器』『人工内耳』『聴力検査』		
その他（履修者へのアドバイス等）	難聴は臨床現場で非常によく遭遇する疾患です。成人領域で臨床に携わるならば、難聴を抱える方と出会う機会は必ず訪れます。本講義を通して、臨床現場で役立つ実践的な知識と技術を一緒に学んでいきましょう。疑問点があれば、講義中や講義後に遠慮なく質問してください。		

学科・年次	言語聴覚科・2年次	開講期間	前期
科目名	聴覚障害IV（各論・成人演習）		
担当者	諸橋 麻衣子		
単位数（時間数）	1単位（30時間）	履修方法	講義および演習
教科書・参考書	『言語聴覚療法臨床マニュアル』『最新言語聴覚学講座 聴覚障害学』		

授業概要
成人聴覚障害の特徴や訓練に必要な知識を学び、臨床におけるリハビリテーションの流れを理解する。評価の目的・方法、訓練や支援計画立案、訓練支援の方法について模擬体験を通して指導する。なお、言語聴覚士として臨床経験のあるものがその経験を活かして講義を担当する。
授業の目的（意義）
聴覚障害リハビリテーションに必要な知識を習得し、実際の臨床現場で求められる専門的な知識と技能を身につける。
関連する学科のDP
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験に合格できる知識を身につけている。</li> <li>・言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる</li> <li>・正確な評価技術を身につけ、効果的なリハビリテーションを実践する</li> <li>・信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身につける</li> <li>・専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ</li> </ul>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「コミュニケーション・モード」 聴覚障害者支援で用いる各種コミュニケーションモードを知る。	「コミュニケーションモード」 聴覚障害者がコミュニケーションの際に用いる様式について、それぞれの特徴を説明できる。	諸橋 麻衣子
2	「手話について」 手話の種類と特徴について知る 手話とろう文化を知る 日本語対应手話の表現法を知る	「手話の種類と表現方法」 手話の種類と特徴を説明できる。 日本語対应手話で表現する方法を説明できる。	諸橋 麻衣子
3	「手話演習」 簡単な文章の手話による表現を学ぶ	「手話で表現してみる」 簡単な文章を手話を使って表現できるようになる。	諸橋 麻衣子
4	「手話実技」 手話を用いた発表を行う	「手話を使ってみる」 手話を用いて決まった内容を伝えられる。	諸橋 麻衣子
5	「読話について」 読話の性質と限界について知る	「読話の性質」 同口形異音と弁別できる口形の数を説明できる。	諸橋 麻衣子

	読話による理解の方法について知る 「読話訓練」 読話訓練の方法を知る。	読話による理解に必要な要素が分かる。 「読話訓練の内容と進め方」 読話訓練の内容と実践的訓練の行い方を説明できる。	
6	「読話訓練計画」 読話初心者に対する訓練計画を作成する。	「模擬読話訓練の計画立案」 難易度を考慮した訓練計画が作成できる。	諸橋 麻衣子
7	「読話訓練の実施」 学生同士で模擬訓練を実施する	「模擬的読話訓練を実施する」 計画に基づいて読話訓練が実施できる。	諸橋 麻衣子
8	「人工内耳マッピング」 人工内耳マッピングの具体的実施方法を知る	「人工内耳マッピング操作と手順」 マッピング操作の概要を把握できる。 マッピングの手順を説明できる。	諸橋 麻衣子
9	「模擬症例の検討 1」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「軽度難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	諸橋 麻衣子
10	「模擬症例の検討 2」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「中等度難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	諸橋 麻衣子
11	「模擬症例の検討 3」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「高度難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	諸橋 麻衣子
12	「模擬症例の検討 4」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「重度難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	諸橋 麻衣子
13	「模擬症例の検討 5」 模擬症例の問題把握と対応方針を考える	「高齢難聴症例の問題把握と対応検討」 模擬症例の問題点把握とその原因を考察し、対応方針を導ける。	諸橋 麻衣子
14	「特殊な聴覚障害」 臨床でみられる特殊な聴覚障害について学ぶ	「臨床でみられる特殊な聴覚障害」 聴覚情報処理障害 (APD)、一側性難聴を理解し、評価方法および支援方法について説明できるようになる。	諸橋 麻衣子
15	まとめ・科目試験	「全体の総括と科目試験」	諸橋 麻衣子
成績評価方法	実技試験 (20%)、レポート (40%)、科目試験 (40%) 総合的に評価する。 科目試験については、授業数の 2/3 以上の出席をもって受験可能とし、6 割以上の得点を合格とする。		

準備学習/事後学習	<p>準備学習：教科書の「成人聴覚障害概論」の部分を読んでおくこと</p> <p>事後学習：国家試験対策として、知識の整理をすること</p>
関連科目	<p>「聴覚障害Ⅲ」「聴力検査」「補聴器」「人工内耳」の内容を、当科目で臨床現場を想定した上で総合的に学ぶ。</p>
その他（履修者へのアドバイス等）	<p>授業内容は臨床的な内容が中心となりますが、科目試験は国家試験対策も兼ねて行います。</p> <p>普段の学習から知識の整理をし、曖昧な理解を放置しないようにしていきましょう。わからないことは自分で調べたり、積極的に質問をしたりしてください。</p>

学科・年次	言語聴覚科 2年	開講期間	通年
科目名	臨床実習Ⅱ		
担当者	実習指導者・大内田 潤子・諸橋 麻衣子		
単位数（時間数）	11 単位（440 時間）	履修方法	臨床実習
教科書・参考書	言語聴覚療法臨床マニュアル 協同医書出版社		

授業概要
臨床現場で規定以上の経験年数を持つ言語聴覚士の指導の下、言語聴覚療法の実際を学ぶ
授業の目的（意義）
臨床実習指導者の指導・監督のもとに言語聴覚療法の評価・指導・報告書の書き方を習得する。 言語聴覚士5年以上経験者が担当者として実習を行う。
関連する学科の DP
②言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる ③正確な評価技術を身に付け、効果的なリハビリテーションを実践する ④信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身に付ける ⑤専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ ⑥相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
55日 2施設	<p>「臨床実習」</p> <p>学校で学んだ言語聴覚障害関連の検査・評価方法および訓練方法の知識や理論について、実際の臨床の場で実践し、習得する。</p> <p>学習した理論・方法等について、実際に対象者のニーズに結びつけ、理論と実際との差を認識しながら、治療者としての能力を総合的に養う。</p> <p>リハビリテーション・スタッフとしての立場を自覚し、チーム・アプローチのあり方を把握する。</p>	<p>「臨床実習」</p> <p>各患者様に必要な検査を選択することができる 検査の結果から言語聴覚障害のプロフィールを説明できる 評価をもとに適切な指導計画を立てることができる 指導計画をもとに、指導を行うことができる 指導の様子、患者様の反応をみながら指導を見直すことができる 指導経過をまとめることができる</p> <p>チームアプローチに必要なことを説明できる。 チームアプローチの重要性を念頭において行動することができる</p>	<p>実習指導者 大内田 潤子 諸橋 麻衣子</p>

	症例報告書を作成できる	症例報告書を作成することができる	
成績評価方法	指導者からの評価表を参考にし、出席・デイリーノート・症例報告書・実習態度などで評価する		
準備学習/事後学習	準備学習：臨床実習に必要な知識の整理、実施する検査の理論や評価の仕方を学んで臨む。 事後学習：実習で得た知識、実施した検査や評価が将来にいけるよう、ポイントをまとめておく		
関連科目	これまで学んだすべての科目		
その他（履修者へのアドバイス等）	将来言語聴覚士になるための実習ということを弁えて実習に臨んでください。		

学科・年次	言語聴覚科 2 学年	開講期間	通年
科目名	実習報告会・模擬試験		
担当者	大内田潤子・専任教員		
単位数（時間数）	2 単位 40 時間	履修方法	講義・演習
教科書・参考書	言語聴覚士テキスト 医歯薬出版		

<b>授業概要</b>
<p>国家試験形式の模擬試験をする。</p> <p>臨床実習でまとめた「症例報告書」をもとに実習報告会をする。</p>
<b>授業の目的（意義）</b>
<p>模擬試験を通して現在の自分の実力を知り、国家試験に備え学習する。</p> <p>臨床実習で学んだ事柄を皆で共有し、専門的視点を育てる。なお、言語聴覚士として臨床経験のある教員がこの講義を担当する。</p>
<b>関連する学科の DP</b>
<p>②言語聴覚士としての専門的な知識をもち、根拠に基づいた言語聴覚療法を実践できる</p> <p>③正確な評価技術を身に付け、効果的なリハビリテーションを実践する</p> <p>④信頼される医療従事者としてのコミュニケーションスキルを身に付ける</p> <p>⑤専門家としての自覚をもち、常に学び続ける意識をもつ</p> <p>⑥相互理解を深め、チーム医療の一員として多職種連携に貢献する</p>

回 (コマ)	「授業項目」(単元名) 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	「模擬試験①」 国家試験の過去問題から 200 問を出題する。	「模擬試験①」 120 点（6 割）以上の得点を取る。	大内田潤子 専任教員
2			
3			
4			
5	「模擬試験②」 国家試験の過去問題から 200 問を出題する。	「模擬試験②」 120 点（6 割）以上の得点を取る。	専任教員
6			

7			
8			
9	「模擬試験③」 国家試験過去問題以外から 200 問 を出題する。	「模擬試験③」 120 点（6 割）以上の得点を取る。	専任教員
10			
11			
12			
13	「模擬試験④」 国家試験過去問題以外から 200 問 を出題する。	「模擬試験④」 120 点（6 割）以上の得点を取る。	専任教員
14			
15			
16			
17	「実習報告会」 臨床実習で作成した「症例報告書」 の内容を発表し、専門的視点を育て る。	「実習報告会」 症例報告を通して実習の成果を発表する。 専門的視点から討論できる。	専任教員
18			
19			
20			
成績評価方法	4 回の模擬試験 800 点、実習報告会 100 点、合計 900 点中 540 点（6 割）以上を合格とする。 全 20 コマ中 6 コマを超えて欠席すると単位を修得できない。		
準備学習/事後学習	準備学習：国家試験問題を勉強すること 事後学習：模擬試験の復習をして次の試験に臨むこと		
関連科目	国家試験に対応する科目		
その他（履修者へのアドバイス等）	国家試験対策として、日ごろからコツコツ勉強しておいてください。		